

マルチメディアスライドショーの作成

- 地域の昔話をデジタル化しよう！

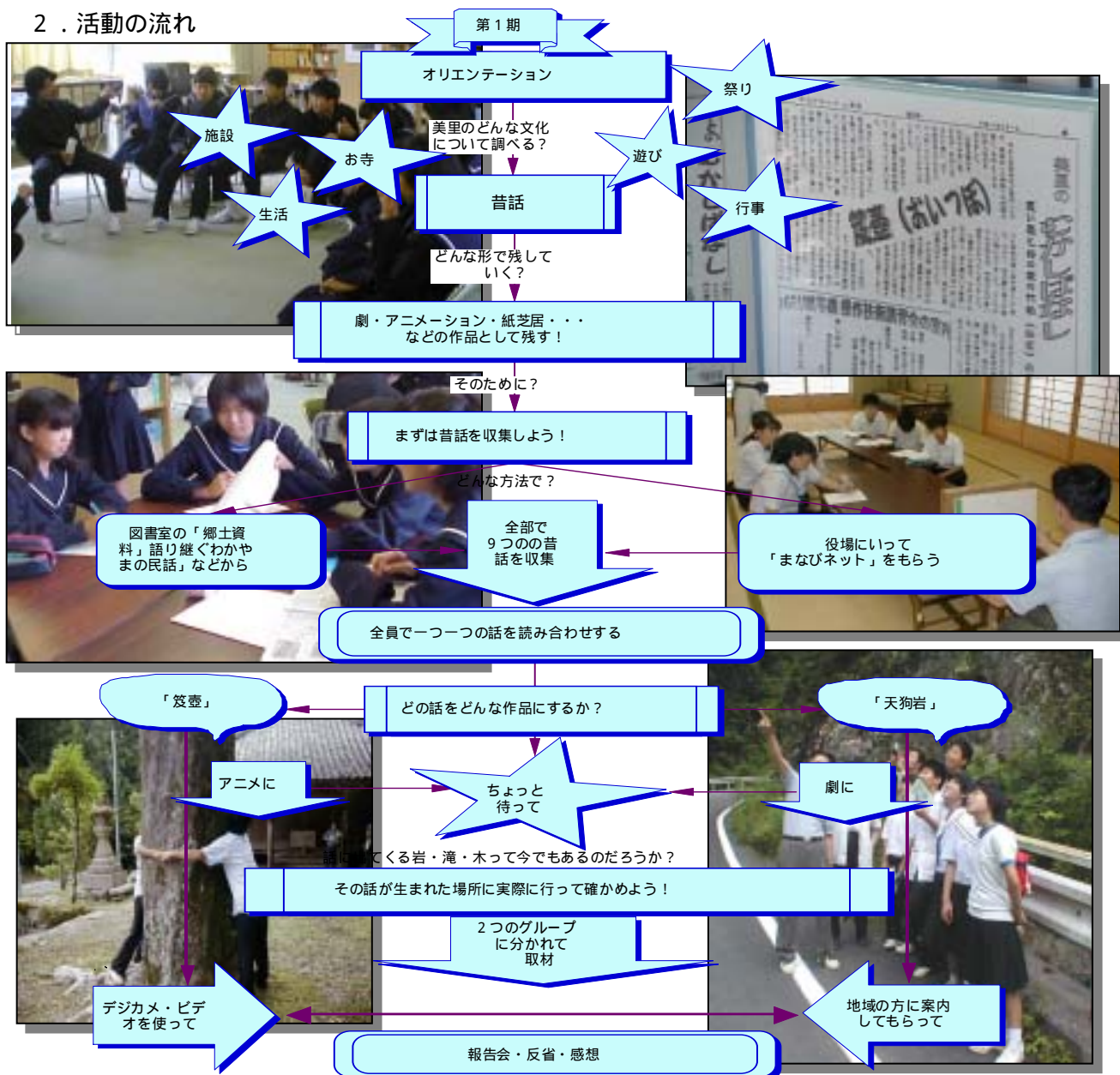
元美里町立美里中学校 豊田充崇 toyoda@center.wakayama-u.ac.jp

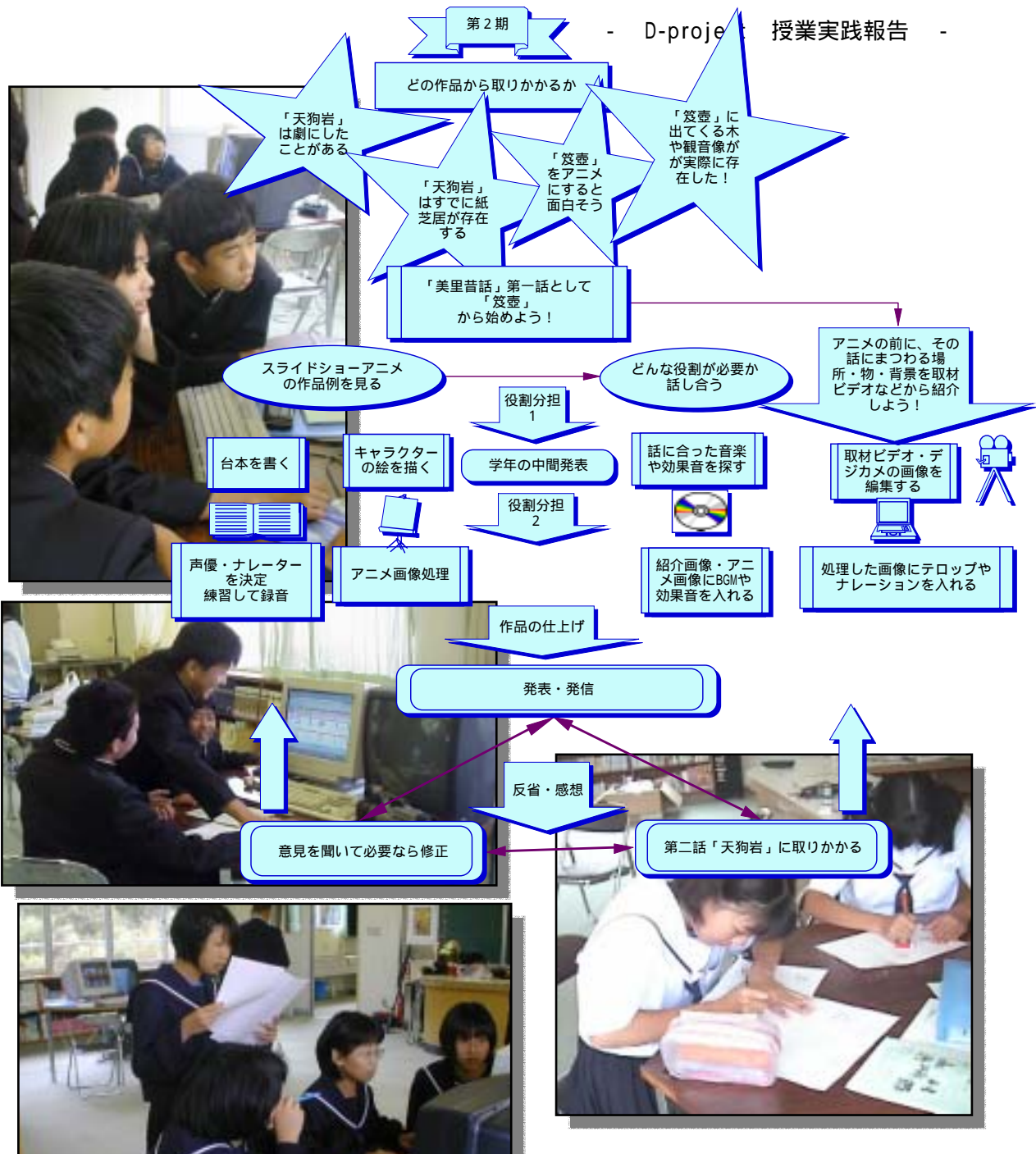
本実践は、美里町立美里中学校第二学年の総合的な学習の時間（地域のテーマ別学習）「わが町美里の宝物 ～『人』・『自然』・『文化』に学ぶ～」において【地域文化コース】の生徒が取り組んだものです。

1. ねらい

- (1) 美里町の貴重な文化に触れ、それを残していく方法を考え実践していく過程で、今まで知らなかった美里町の良さを発見する。また、それを町内外に発信することを通して、「わが町 美里」に生まれ生活することを誇りにし、将来も自分の故郷を大切にしていこうとする心情を育てたい。
- (2) ひとつの作品を創り上げるために、課題を見つけ、解決する方法を模索しながら、協力して作業を進めることにより、自分が役割を果たしたという達成感やみんなで創り上げたという成就感などを感じさせたい。

2. 活動の流れ





第1期～第2期始めの生徒の感想から

- * 美里町は小さい町なのに、こんなに昔話があるなんてびっくりした。今まで、昔話について詳しく調べたことがなかったので、新しい発見があって良かった。取材に行ったときも、今まで知らなかった場所、初めて見るものがあった、ほかの話の現地取材もしてみたいと思った。
- * 早く作品を創り上げて、この昔話を知らない人に見てもらいたい。みんなで協力してわかりやすく楽しめる作品にできたらいいと思う。そして、もっといろんな昔話を作品にして、僕たちの住んでいる美里をほかの町の人たちに知ってもらいたい。
- * 天狗岩を実際に見に行くと、結構大きかったのでびっくりしたし、谷に落ちそうでこわかった。やっぱり実際に見てみると話の中身がよくわかると思った。あんなものをどうやって運んだのだろうと不思議に思った。それにこういうものは美里の文化財として残してほしいと思った。それからA君がキャプチャーを使いこなして取材ビデオを編集しているのがかっこええと思う。画像ができれば僕も早くBGMや効果音を入れていきたい。
- * 取材に行ったときにいろんな話をたくさん聞けたし、実際に話に出てくる観音様は、普通ならめったに見ることができないのを見せてもらえてトクした気分。美里は奥が深い！でも、あの笠壺（滝壺）が道の工事で少しずつ埋まっているというのが少し悲しかった。
- * 天狗岩を見に行くと、昔話のとおり岩と滝があってすごいと思った。近くまで言ってみると、昔本当天狗がいたかも・・・と思えてしまった。「笠壺」の班の人の発表を聞いていると、話に出てきた竹柏（なぎ）の大木が本当に立っていて、私も見たかったです。今、「笠壺」の絵を描いていますが、ビデオやデジカメで見せてもらったので、イメージがわきやすく絵を描くのも楽しいです。
- * 取材に行ったとき、桂川がダムになるかもしれないと聞いたので、せっかく美里の昔話にまつわる場所なのに、ダムになってなくなってしまうなんてもったいないと思いました。だから余計に、私たちが作品をきちんと仕上げ美里のいいところを残していきたいと思いました。私は美里の昔話をすべて紙芝居かスライドショーの作品にしたいです。
- * 取材で、昔話にまつわることだけではなく、その地域に言い伝えられていることや、珍しいものを見せてもらって、今まで知らなかった美里のことがわかってよかった。今「笠壺」の台本を書いているけど、本に載っている表現をそのまま使えないから、言葉や、登場人物を自分たちで考えて入れていくのが難しいけど、みんなで考えながら創っていくのが楽しいです。やりがいのある作業だと思います。早く仕上げ、声優を決めて練習したいです。

《成果》

1. 「わが町美里」に残る文化遺産に興味を持ち、地域の方々との交流や現地取材などを通して、美里町の自然環境や文化遺産を後世に伝え、残していきたいという気持ちが芽生えてきている。
2. 作品を創作するためにさまざまなメディアに触れ、その活用法を習得し使いこなせるようになってきている。
3. 担当する作業のエキスパートになることで、自分が確かにみんなの役に立っているのだという自信を持つことができ、且、お互いにそれを認め合いながら作業を進めることができている。
4. それぞれのアイデアや工夫を持ち寄り、みんなでひとつの作品を創るという生産的な作業を楽しみながら、目標に向かって協力して取り組むことができている。
5. メディアの操作法習得や作品の創作過程で、生徒と指導者教諭が一緒に考えたり学びあったりする場面があり、日頃の授業とは違った関係で授業ができているのも成果のひとつと考えたい。